

ウェルび～な通信

第7号

～ずっと海老名で暮らしたいプロジェクト～

第1回 海老名市自立支援協議会が開催されました

平成29年5月26日（金）に今年度、第1回目となる自立支援協議会が、海老名市役所にて開催されました。冒頭、内野 優市長よりご挨拶をいただき、その後、今年度の活動内容や昨年度の取り組みについて報告が行われました。会議の中では、チーム活動報告の他に、相談支援事業所より実際の事例についての報告も行われました。それぞれ、状況や課題は異なりますが、複数の機関が連携し、協力しながら支援を展開しているという共通点がありました。今後の相談支援体制の充実のためには、より一層、地域づくりを発展させていく必要があることを確認しました。

チーム活動方針

チーム「育つ・学ぶ」

障がいのある子どもたちが、生まれ育ち大人になるまでの主に児童期の課題を中心に地域づくりを考えます。

チーム「らいふ」

NEW

障がいのある人たちが、生活していく上でのさまざまな課題（暮らし方・遊び方・住まい・防災・地域との関わりなど）について、広く考えていきます。

チーム「働く」

障がいのある人たちが「働く」ためのさまざまな課題に取り組み、より働きやすい地域にするための方策を、関係機関と連携し、考えていきます。

チーム「まもる・つながる」

誰もが自分らしく、誇りをもって、安心して暮らすことのできる地域を作るために、障がい者の権利擁護の視点で地域課題について考えていきます。

自立支援協議会 ずっと海老名で暮らしたい プロジェクト

10th
ANNIVERSARY

ネットワークから地域づくりへ



自立支援協議会の活動10年目を迎えました。



ともに認め合うまち・海老名宣言 ～かかわり・つながり・ささえあい～

海老名市はあらゆる障がいへの差別をなくし、人としての権利が守られ、障がいがあってもなくても、誰もがその人らしく安全・安心に暮らすことができるように、ともに認め合うまちをめざして、次のことを宣言します。

- 一 「障がい」は決して特別なことではなく、誰にでも起こり得ることです。私たちはお互いに、多様な人格と個性・生き方を認め合い寄り添う社会、偏見や差別のない共生社会をめざします。
- 一 「障がい」ゆえの生きづらさを抱えながら生活している人たちが大勢います。私たちはお互いに勇気を持って言葉かけをしていきます。
- 一 海老名市は、「障がい」について関心を持ち、理解を深め、寄り添う気持ちが持てるよう、ともに認め合うまちづくりを推進します。

平成29年3月28日

海老名市

今回は、障がい者雇用の現状について、ご家族へのインタビューを中心にご紹介したいと思います。インタビューをさせていただいたのは、市内在住で知的障がいのある20代、男性のご家族です。就労までの経過や、ご家族としての想いなどをうかがい、大切なポイントを教えていただきました。

“好き”をモチベーションに!

働き始めて5年が経ちますが、当初は体力的にも辛く、身体がもつかな・・と書いていましたが、だんだんと体力がついて休日も活動的になってきました。働くことはやはり大変で愚痴もあるものの、音楽やアイドルなど、好きなものや欲しいものを、自分の給料で購入することをモチベーションに働いています。小さなころから今まで好きな事を大切に、とことんやらせてあげたことがよかったのだと思います。

子どもの特性を見極めて!

就労先について、現実にはとても限られた選択肢から決めていくことになります。息子は、運よく1つ目の実習先でマッチングが上手くいき、実習からそのまま就労に繋がりましたが、運の要素もあるのは事実だと思います。保護者が、就職先を見つけ出すのは、とても困難です。「子どもの特性・できること」を親が見極め、進路の先生などに伝えていくことが大切だと感じています。

生活の自立がなにより大切!

意識して準備をしてきたことは「就労に向けて」というよりも、まずは「生活の基本的な自立に向けて」という面が大きいです。起床・就寝・食事の時間など規則正しい生活を家族一丸となって心掛けたことが、就労後の生活にスムーズに移行できたことに繋がっていると思います。



これから就労に向けて準備する方へ!

就労をするにあたって、子どもが今まで（学校や療育で）どれだけ練習を積んできたかが大切になります。その中でも特に「手先の使い方」はとても大切。手先を上手く使えるかどうかで、就労先の選択肢が広がると思います。療育での買い物の練習は、現在の生活の中で役立っていて、自分の好きなものを自分で選んで買うことが仕事のモチベーションになっています。

また、常に心掛けていたのが情報収集です。ネットの情報だけではなく、地元海老名のより詳しい話を聞くことも大切です。現在、手をつなぐ育成会に入会しているのも、そのためです。会員のお母さんと話すことで救われることも多かったです。

最後に、子どもの好きなことを趣味や得意なことに広げられるように手助けをしてあげてください。それから、成長に伴い親との密なかかわりが必要な時期もあれば、思春期などで親以外の人とのかかわりをふやしていくことも必要だと思います。

海老名市の就労支援の状況

障害者総合支援法では、就労に向けたサービスがあります。今回は、主な就労支援サービスをご紹介します。同じサービスであっても、事業所によって、就業規則や通所日数、作業内容が異なります。興味のある方は、実際に足を運んで見学して、自分に合った事業所を見つけて頂けると良いと思います。

就労移行支援事業

<特徴>

原則2年間で、職業体験や求職活動のサポートなど、様々なサポート受けながら、就労を目指す。

<市内事業所>

アシスト
SELPピナ
プラーナ海老名
アビリティージャスコ海老名
LITALICO ワークス海老名

就労継続支援 A 型事業

<特徴>

企業での就労が難しい方に対し、雇用契約を結び、労働者として、働きながら就労を目指す。

<市内事業所>

ライブフードサポート
リーブル



就労継続支援 B 型事業

<特徴>

就労機会と生産活動を通じて、生活リズムを整え、次のステップを目指す。

<市内事業所>

エアリアル・あきば
はあとすまいる・SELPピナ
かっぱ堂・レインボードリーム
ライブフードサポート
ナチュラルサポート海老名

